

6年生実践から見る 指導と評価

1. 単元名 「武士の政治が始まる」 ～日本を揺るがす最強の武士団誕生！～

2. 学校教育目標と社会科（本単元）で目指す子どもの姿

（省略）

3. 単元目標

源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて、人物の働きや代表的な文化遺産に着目し、文化財を見学したり、地図や年表などの資料で調べたりして、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考え、表現することで、武士による政治が始まったことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し、解決しようとする態度を養う。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、文化財を見学したり、地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いの様子を理解している。	①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて考え表現している。	①源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、武士による政治が始まったことを理解している。	②源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを関連付けたり、総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。	

5. 目指す子どもの姿に迫るための授業改善の5つの視点

(1) 教材化 ～2つの「力」という視点をもてるようにするための教材化～

本単元では、武士という天皇や貴族とは立場の違う人物が力をつけてきたことを理解できるようにすることがねらいです。まず、「貴族より武士の方が力をもっているのではないか」という問題意識をもてるように、武士が討ち取った貴族の首を持って貴族たちの間を歩いている資料を提示しました。また、単元を通して幕府と御家人の主従関係に気付くように、御恩と奉公の関係の図を単元の前半から活用しました。単元後半では、日本に比べて兵力はるかに高い元を退けることができた日本の凄さが伝わるように、日本と元の領地の規模や兵士の数、戦い方の違いなどを戦いごとに表にして比べられるように提示しました。武士が数々の戦を行ってきたことや武士が活躍できる政策を行ってきたことから、武芸を身に付けることによって得た力と大勢の武士をまとめ上げた政治の仕組みによって武士の世の中が始まったことを理解し表現できるように教材化を図りました。

(2) 学習過程 ～地域にある素材を生かした単元構想の工夫～

単元の導入では、平安時代の貴族と鎌倉時代の武士の人々や屋敷の様子の違いを比べ、平治物語絵巻の武士が貴族の首を討ち取って闊歩している様子から、「武士と貴族の力の関係はどのように変化していったのだろうか。」という単元を見通す学習問題を設定しました。ここから、子どもたちが出した予想を分類しながら、調べる視点を明確にしました。本単元では「武力による強さ」「政治の仕組み」の二つの視点を取り入れて学習計画を立てられるようにしました。

単元の前半では、源平の戦いの資料を「武力的な力」「政治的の仕組み」の視点に着目して調べることを通して、源氏が御恩と奉公の礎となる取組を行い、味方を集めたことが、武士の力を高めるのに大きく影響したことを理解できるようにしていきました。

中盤では、征夷大將軍になり鎌倉幕府を開いた源頼朝の政策について着目し調べることを通して、御恩と奉公という政策を行うことで、全国の御家人を従わせることができるようになったことを理解できるようにしました。見学地に大仏切通しや建長寺見晴らし台を選び、鎌倉に幕府を開いた理由の一つである地形や、源氏のゆかりの地であることを感じられるようにしました。

単元終盤では、源氏が滅んだ後の鎌倉幕府の様子や元の襲来に着目して学習するようにしました。源頼朝がつくった御恩と奉公などの政策によって源氏が滅んだり、外国から攻められたりしても対応できるほど、武士が全国的に力をつけたことを理解できるようにしたいと考えました。

(3) 学習活動 ～既習をつなげる姿勢をつくる～

学んだことがつながるように、日々の発言やノートに書かれた振り返りなどで、前の時代と比べたり、関連付けて考えたりしていることを価値づけてきました。

また、学習の流れが定着し、問題解決に向かえるように、調べる活動で学習問題が解決できるような情報を選んで集めるように繰り返し伝えたり、調べたこと・考えたこと・疑問などに分けながらノートにまとめていくように指導したりしてきました。

さらに本単元では、幕府の政策や将軍と御家人の主従関係を築くことによって力をつけていることが理解できるような学習の足跡を掲示しました。学習問題に対して今までの学習から根拠となる考えをもち、話し合いに臨めるようにしたいと考えました。授業の展開の中で「こんなに大きくて長い防塁を完成することができたのはなぜだろうか」などと問い返し、ねらいに迫れるようにしました。

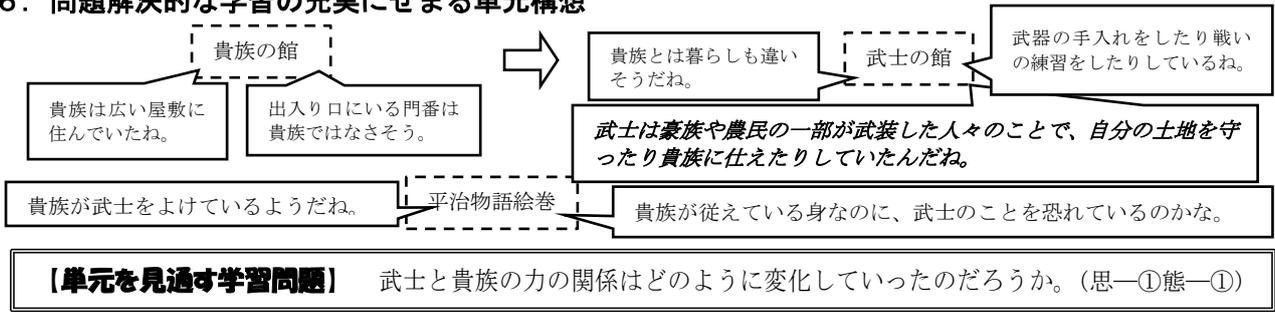
(4) 指導と評価 ～振り返りの視点を明らかにして、足並みをそろえる～

児童が自分で学習のまとめや振り返りを書けるように、授業の最後に今日の問題をもう一度全体で共有したり、キーワードを確認したりしました。初めころはまとめで何を書けばよいのか分からなかった児童も、繰り返し行うことで、自力で書くことができるようになりました。本単元では、子どもたちが自分の力で学習のキーワードを見出し、今日の学びを考えられるようにしました。

(5) 一人一人が生きる社会科学習 ～興味・関心が高まる資料提示～

社会科においては一人ひとりが問題意識をもてるように、社会的事象に対して興味・関心が高まるような導入を行いました。例えば「国づくりへの歩み」では、縄文～古墳時代がどのように変化していったのかということについて問題意識がもてるように、縄文・弥生・古墳時代の暮らしの様子が変わる資料を提示して比べられるようにしました。本単元でも、元は日本よりも兵力が高いのに、二度も退けることができた日本の凄さを感じられるように、当時の元の領土や兵力、戦法などを日本と比べられるような資料提示をしました。これらを通して、子どもたちが感じる素朴な疑問やつぶやきを引き出すことで、主体的な学びにつながるようにしました。

6. 問題解決的な学習の充実にせまる単元構想



調べる視点 「力をつける」→力とは？

武力による強さ

政治の仕組み

武力による強さ

平治の乱 石橋山の戦い

平氏は貴族や源氏に勝つほど力をつけているんだね。

②平氏はどのように力をつけたのだろうか。(知—①)

平清盛の年表 家系図 日宋貿易

平清盛は貴族との戦いに勝ち力をつけていった。武士として初めて太政大臣になり、娘を天皇のきさきにして、政治でも大きな力をもった。だが、貴族と同じ政治のやり方で武士の反対も大きかった。

石橋山の戦い(兵力) 富士川の戦い(兵力)

短い期間で兵力が何倍にも上がっているね。

どうして源氏はこんなに兵力をあげることができたのだろうか。

③源氏はどのように力をつけたのだろうか。(知—①)

源平の戦い 源頼朝 源義経

自分のために戦ってくれたら土地をあげるという約束をして人を集めたんだ。武士たちはご褒美のためにきつと頑張って戦っただろうね。

源頼朝は主に東国の武士たちに一緒に戦ったら土地を与えると約束し、多くの武士を味方につけた。義経の働きもあり平氏を滅ぼし、鎌倉幕府を開いた。

政治の仕組み

④⑤⑥源頼朝は、なぜ鎌倉に幕府を開いたのだろうか。また、そこでどのような政治を行ったのだろうか。(知—①)

鎌倉の地形(見学) 切通し(見学)

武士のための仕組みをつくったんだね。

敵が攻めこむのに大変そうだよ。

源頼朝は、敵に攻め込まれにくい鎌倉で幕府を開いた。御家人と「ご恩と奉公」の関係を結んだり、守護・地頭を置いたりして武士中心の政治を行った。

承久の乱前の勢力図

源氏家系図

源氏が途絶えてしまった後、幕府はどうなるのだろうか。

⑦将軍が死んだ後、鎌倉幕府はどうなったのだろうか。(知—①)

承久の乱

源氏・北条家家系図

御成敗式目

幕府の仕組みが整っているから、御家人が離れることはなかったんだね。

執権の北条家が武士の法律を作って、守ろうとしているね。

守護・地頭

ご恩と奉公

将軍が死んだ後、北条家が執権をとり政治の力をもつようになった。後鳥羽上皇が権力を取り戻すために、兵をあげたが、政子の言葉を聞いた御家人たちが団結し、幕府が勝利した。

蒙古襲来絵詞

元と日本の兵力

元寇時の勢力図

北条時宗

⑧なぜ鎌倉幕府は、自分たちよりも強い元を二度も退けることができたのだろうか。(思—②)

防塁

築かれた防塁の範囲

多くの御家人が集まったのも幕府と御家人の関係づくりが関係しているね。

鎌倉幕府は、自分たちよりも強い元に対して、御恩と奉公の強い結びつきによって全国の御家人を集め、防塁を作り元からの攻撃を防ぎ退けた。幕府は全国の御家人を集められるほど力をもってきた。

【単元を振り返る学習問題】 ⑨武士と貴族の力の関係はどのように変化していったのだろうか。(知—②)

ノート 学習の掲示

武士は豪族や農民の一部が武装したことによって始まった。平氏と源氏が力をつけたが特に源氏である源頼朝は征夷大将軍になり、鎌倉に幕府を開いた。ご恩と奉公の制度を取り入れ御家人との間に信頼関係を作ったり全国に守護・地頭を置いたりすることで、武士が中心となって武力面でも政治面でも力をつけることができた。源氏が滅んで二度も元が攻めてきても、幕府の仕組みによって仕える御家人たちが全国から集まり追い返すことができた。

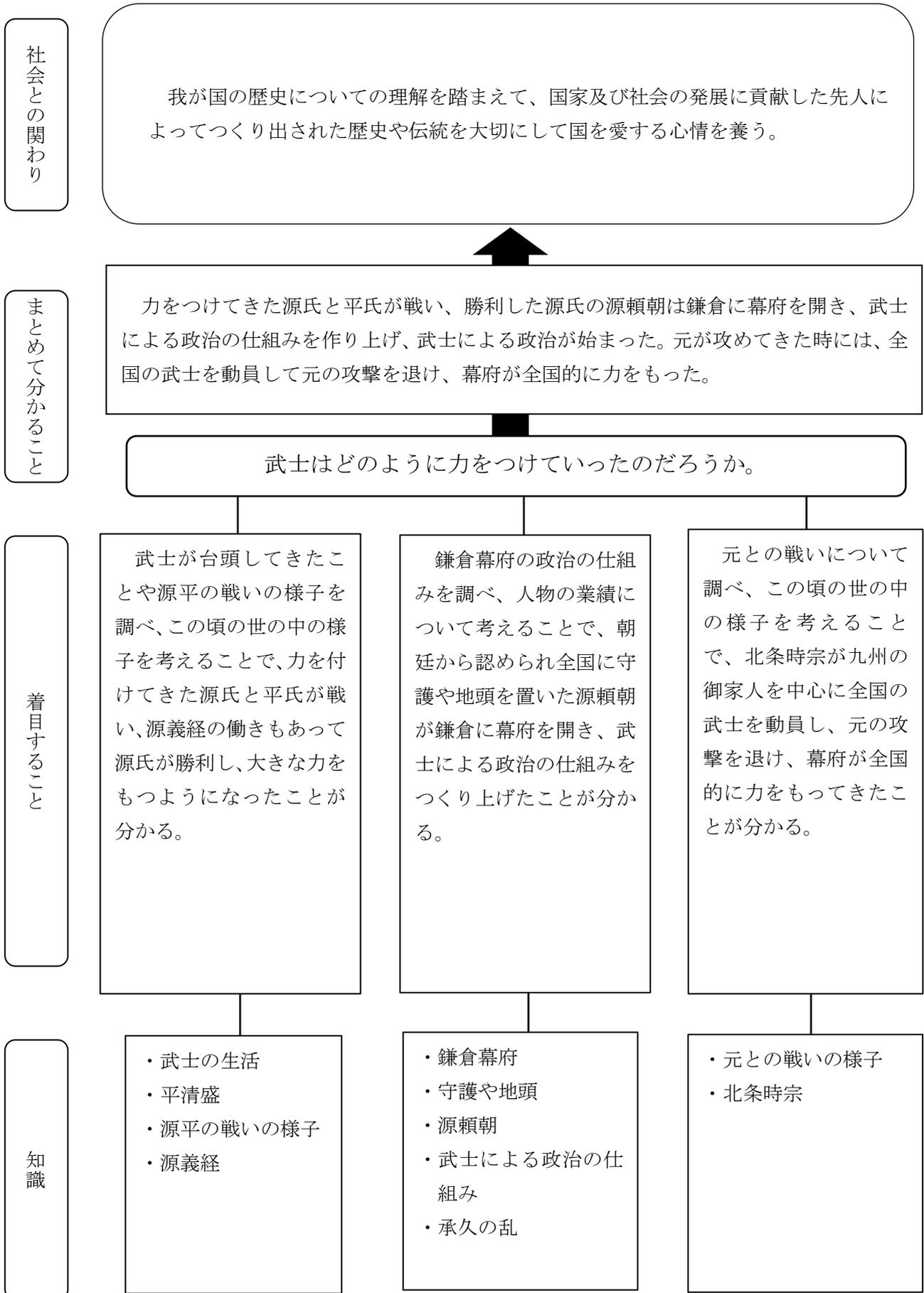
今までは天皇や貴族など身分の高い人たちがまとめる世の中だったけど、武士が力をつけ、御恩と奉公などの制度が取り入れられたことで、努力すれば自分の力が上がる世の中へとなった。将軍というリーダーはいるけれど、身分の低い人たちが力をつけられる仕組みのおかげで、多くの人たちが助けられたのではないかな。

7. 資質・能力の育成に向けた学習評価計画（9時間） ※は評価したことを記録に残す場面

○本時のねらい	○主な学習活動	◇主な資料	評価方法【評価規準】
<p>①武士がどのように力をつけてきたのかということについて疑問をもち、学習問題をつくることができるようにする。 学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立てることができるようにする。</p>	<p>○平安時代の貴族の館と武士の館の資料について話し合い、学習問題をつくる。 ○予想を出し合い学習計画を立てる。</p>	<p>◇貴族の館の様子 ◇武士の館の様子 ◇平治物語絵巻</p>	<p>発言やノートの記述から、「世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して問いを見出しているか」を評価する。 【思—①】 単元を見通す学習問題に対して、「予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。 【態—①】</p>
<p>②武士の中で力をもった平氏を始め、平清盛が行った政治を調べることを通して、貴族に代わり平氏が力をつけてきたことを理解することができるようにする。</p>	<p>○平清盛が行った政治について調べる。</p>	<p>◇平治の乱 ◇石橋山の戦い ◇平清盛（年表） ◇平清盛家系図 ◇日宋貿易</p>	<p>発言やノートの記述から、「必要な情報を集め、読み取り、貴族に代わり平氏が力をつけてきたことを理解しているか」を評価する。 【知—①】</p>
<p>③源平の戦いの様子を調べることを通して、平氏に代わり源頼朝率いる源氏が力をつけ、平氏を滅亡させたことを理解できるようにする。</p>	<p>○源平の戦いの様子を調べる。</p>	<p>◇石橋山の戦い ◇富士川の戦い ◇源平の戦い ◇源頼朝 ◇源義経 ◇御恩と奉公（動画）</p>	<p>発言やノートの記述から、「必要な情報を集め、読み取り、平氏に代わり源氏が力をつけ平氏を滅亡させたことを理解しているか」を評価する。 【知—①】</p>
<p>④⑤⑥鎌倉幕府の成立の経緯や幕府と御家人の関係について調べることを通して、幕府の政治の仕組みを理解できるようにする。</p>	<p>○鎌倉幕府の成立の経緯や御恩と奉公などの鎌倉幕府の政治の仕組みについて調べる。</p>	<p>◇鎌倉の様子（見学） ◇切通しの様子（見学） ◇源頼朝 ◇御恩と奉公 ◇守護・地頭</p>	<p>ノートやスライドの記述から、「必要な情報を集め、読み取り、御恩と奉公などの幕府の政治の仕組みを理解しているか」を評価する。 【知—①】</p>

<p>⑦源氏が滅んだ後の幕府の様子を調べることを通して、北条氏が執権となり鎌倉幕府を引き継いでいくことを理解できるようにする。</p>	<p>○源氏が滅んだ後、鎌倉幕府はどうなったのかを調べる。</p>	<p>◇承久の乱の前の勢力図 ◇源氏家系図 ◇承久の乱 ◇源氏・北条家家系図 ◇御成敗式目 ◇承久の乱の後の勢力図</p>	<p>発言やノートの記述から、「資料から必要な情報を集め、読み取り、源氏が滅んだ後、北条氏が執権を握ったことや政治の仕組みが整っていたから鎌倉幕府は受け継がれたことについて理解しているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;">【知一①】</p>
<p>⑧鎌倉幕府が元を二度も退けることができた理由について話し合う活動を通して、幕府と御家人の関係や元への対策を関連付けたり総合したりして考え、幕府の力が全国に広がっていったことを表現できるようにする。</p>	<p>○元の二度も退けることができた理由について、既習や資料から考えて話し合う。</p>	<p>◇蒙古襲来絵詞 ◇幕府の勢力図 ◇てつはう ◇北条時宗 ◇日本と元の兵力 ◇防塁 ◇築かれた防塁の範囲</p>	<p>発言や話し合いの様子、ノートの記述をもとに「鎌倉幕府が元を退けられた理由について様々な要因と関連付けて考えているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;">【思一②】</p>
<p>⑨単元を振り返り、学習問題について話し合うことを通して、武士による政治が始まったことを理解できるようにする。</p>	<p>○関係図に整理し、学習問題について話し合い、考えをまとめる。</p>	<p>◇これまで活用してきた資料 ◇ノート</p>	<p>関係図から、「学習したことを基に、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて関連づけたり、総合したりして、武士による政治が始まったことを理解しているか」を評価する。</p> <p style="text-align: right;">【知一②】</p>

資料. 「社会のしくみ」と「社会とのかかわり」をつなぐ理解の構造図



ともに生きる未来を創造し、よりよい社会の在り方を問い続ける社会科学習

6年部会 研究の重点の設定に向けて

今年度の社会科研究会では教材化をテーマに進めました。教材化のポイントとして、より多くの人
が実践しやすい教材化を考えるとともに、「子どもたちをいかに身近に引き寄せられるか」という視
点を大切にしながら進めていくこととし、以下のような研究の重点を設置しました。

6年部会 研究の重点

子どもとのつながりを意識し、学ぶ意欲を高め、学習のねらいを達成するための教材化

【6年部会での本単元における視点】

重点① 地域にある素材を生かした教材化と単元構想の工夫(見学を生かして)

本単元は、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを手掛かりに、武士による政治が始まったこ
とを理解できるようにすることが目標です。主に3つの社会的事象を手掛かりに学習を進めていきます。



子どもたちに教材を身近に引き寄せるための1つとして、実際に体験したり現地に赴いたりすることは
効果的だと考えています。そこで、鎌倉見学では、何を見て、どのように授業に生かしていけばよいか
を考えました。鶴岡八幡宮や建長寺の高台から鎌倉全体の地形を見たり、切り通しを歩いたりするこ
とで、守りに適した場所であったことや自分たちの住んでいる神奈川県が政治の中心地であったことな
どを感じ、学習問題の解決のための1つのピースとなるように単元を構想しました。具体的には4時間目
の「源頼朝は、なぜ鎌倉に幕府を開いたのだろう。また、そこでどのような政治を行ったのだろう。」と
いう学習問題に対する予想の解決のために見学の視点を立て、5時間目で見学し、6時間目でまとめて
いくという流れを設定し、実践しました。

重点② 体験や既習の知識を生かした学習展開における教材化

8時間目では、北条時宗を中心に御家人がまとまり元の襲来を退けた事実をもとに、幕府の力が全国
まで及んできたことを分かるようにすることをねらいとしました。子どもが鎌倉の見学や既習の知識を
もとに、予想を話し合い、視点をもって教科書や資料集で調べ、話し合いました。その中で提示する資
料として、防塁の高さが実感できるよう、幅1mではあるが、「実物大の防塁」を教室の壁に再現しまし
た。そして、「築かれた防塁の範囲」がわかる資料を提示し、ねらいが達成できるようにしました。

